

# 叙述補語構文<sup>1)</sup>におけるスペイン語の前置詞の使用の 通時的变化について

下 田 幸 男

## 要 旨

叙述補語構文(本文ではCCP)では、叙述補語が三種類の前置詞 *por*, *como*, *de* と共に現れる。これらの前置詞の使用のされ方の違いを、文献学的に調べ、その結果に基づき通時的コーパスを用いてデータを収集し、どのような変遷を経て現在の使用に至ったかを明らかにした。その結果ラテン語の時代から CCP で使われていた *por* が 17 世紀までは圧倒的多数であったが、19 世紀には *como* が台頭し、20 世紀になるとその多くが *como* に替わってしまった。このような変遷は *por* と *como* が持つ CCP での含意が原因であることが明らかになった。*de* はそれ自体では「として」のような意味は持たないが、CCP 構文では、*de* + 名詞句が主語や目的語の性質を表すことから、主語や目的語の「属性」「職業」などを表す動詞と共起する傾向になることがわかった。

キーワード：前置詞, *de*, *como*, *por*, コーパス

## 0. はじめに

本論では、叙述補語構文 (*construcción de complementos predicativos*, 以下 CCP) において用いられる前置詞がどのような特徴を持ち、どのような動詞と共起するかを分析し、それらの前置詞が通時的にどのような変遷をたどって現在まで至ったか、そしてその原因はどこにあるのかを通時的コーパスを使って探っていく。

本論で扱うスペイン語の CCP は、構文の中心となる動詞と名詞句(主語または目的語)とそれを叙述する補語から成る。

- (a) *Consideramos a tu hermana como inteligente*. 私たちは君の姉を賢いとみなしている。  
 (b) *Jorge pasa por inteligente*. ホルへは賢いと思われている。

(a) は *considerar* という動詞を中心に名詞句 *tu hermana* を叙述する *inteligente* という補語から成っている。(b) は *pasar* という動詞を中心にして名詞句 *Jorge* を叙述する *inteligente* から成っている。この際、多くの場合、補語と共に日本語の「～として、～と」に相当する前置詞が使われるが((a)では *como*, (b)では *por*)、動詞によって使われる前置詞が異なる。

はじめに、CCP においてどのような前置詞が用いられるかを確認し、その後、それらの前

置詞についての通時的な変遷を文献学的に調べ、最後に通時的コーパスを用いてその変遷を量的に分析し、前置詞使用の変遷の原因やそれぞれの前置詞の意味的特徴などを明らかにする。

筆者の知る限り、これまでCCPで使われる前置詞の使用の違いを文献学的に調べ、コーパスでその使用の通時的な変遷を探った研究はない。教育面でも、CCPではどういった動詞がどのような前置詞とり、それがどのような意味を持つのかを体系的に理解しておくことは、正確なスペイン語の解釈をするだけでなく、教育時の教員の予備知識としても有益であろう。

データの収集と通時的な変遷についてはMark DaviesのGenere/Historical<sup>2)</sup>を使った。Mark Daviesのコーパスには12世紀から20世紀までの1億語以上のデータが集積されており、所定の記号を用いることで様々な語彙の並びや動詞の活用、変化などを量的に検索、分析することができる。

## 1. 前置詞

では、どのような前置詞がCCPで用いられるのであろうか。はじめに、「～として」や英語の*as*がどのようなスペイン語に対応しているのかを確認する。その後、そこで確定した前置詞にどのような記述があるのかも合わせて確認する。

### 1.1 和西辞典・英西辞典

代表的な和西辞典である『和西辞典』改訂版(白水社)と『クラウン和西辞典』(三省堂)の「として」の項目について確認する。

#### ◆『和西辞典』改訂版

**como, por, en calidad de...** 例: como representante, tomar a una por esposa

#### ◆『クラウン和西辞典』

【立場, 資格, 機能】 *prep.* **como**, (文語) **en calidad de**; (代金・報酬など) *prep.* **por**.

どちらの辞書も *por, como, en calidad de* の三種類の前置詞が挙げられているが、『クラウン和西辞典』では例文として *de* も使われている:

–*usar un barril de taburete* たるをいすとして使う

しかし、ここでは例文のみで、この *de* の用法についての説明はない。

次に英西辞典 *Oxford Spanish dictionary 4th edition* の記述を確認する。英語の「として」に当

たる英語の前置詞は *as* である<sup>3)</sup> (『ジーニアス和英辞典』調べ)。その中でも *in the condition, role of* (として) を意味する *as* の項目は以下のようにになっている：

◆ *Oxford Spanish dictionary* 4th edition [as]

- *as a teacher/diplomat...* → **como** maestro/diplomático
- *she was brilliant as Cleopatra.* → estuvo genial **en el papel de** Cleopatra.
- *he works as a clerk.* → trabaja **de** oficinista.

*Oxford* によると、英語の *as* (として) に相当するスペイン語の前置詞は *como, en el papel de, de* の三種類ということになる。

以上のことから、日本語の「として」や英語の *as* に対応するスペイン語の前置詞は、ほぼ *como, de, por* の三種類に限定できることがわかった<sup>4)</sup>。

## 1.2 西和辞典・西英辞典・西西辞典

*como, por, de* の三種類の前置詞が各辞書でどのように記述されているのだろうか。西和辞典では『西和中辞典』と『現代スペイン語辞典』改訂版、『スペイン語大辞典』の3点。西英辞典では *Oxford* 第4版、西西辞典としては *Seco* (2011) の記載内容を確認する。

◆ 『西和中辞典』(2007)

**Por** (資格・相当) …として

Pasa **por** trabajador pero es perezoso. Lo tomaron **por** jefe.

**De** (職業・役割・性格) …として, …をして

Trabajar **de**, actuar **de**, calificar **de**, tildar **de**

Actúa **de** príncipe en el teatro. Trabaja **de** camarera. La califican **de** extravertida.

**Como** (主に無冠詞名詞の前で前置詞的に) (資格) …として

aconsejar **como** padre tratar **como** amigo

◆ 『現代スペイン語辞典』改訂版(1999)

**Por** [評価・資格] …として

En la mili le dieron **por** inútil. recibir a + 人 **por** esposa

**De** [役割。+無冠詞名詞] …として

trabajar **de** secretaria **De** postre sirvieron un melón.

**Como** [資格。前置詞的に+無冠詞名詞] …として

Te lo aconsejo **como** padre. Me lo dieron **como** finanza. Asistir a la boda **como** testigo

## ◆ 『スペイン語大辞典』(2015)

**Por** [意見・考慮・評価・資格]…と, …として

Lo tienen **por** tonto, Admitieron este cheque **por** válido, Las dan **por** muertas, El príncipe la recibió **por** esposa.

**De** [役割。+ 無冠詞名詞]…として

Trabaja **de** ingeniero, **De** postre sirvieron un mousse de chocolate.

**Como** [資格]…として

1) [前置詞的に + 限定詞なしの名詞] Te los aconsejo **como** padre.

2) [+ 形容詞] La herida fue calificada **como** grave.

3) [最上級の場合は原則として + 定冠詞・所有詞 + 名詞] Es considerado **como** el mejor jugador.

4) [関係詞の先行詞の場合は時に + 限定詞つきの名詞] Pasará a la historia **como** el hombre que acabó con el terrorismo.

上記の3点の西和辞典「資格」「役割」「評価」などの記述があり、特に『スペイン語大辞典』は *como* の使用に関して比較的詳細に扱ってはいるが、それぞれの前置詞の使われ方の違いまでは十分に理解できない。以下の西英辞典も例文は豊富ではあるが、それぞれの使われ方の違いまではやはり判断することはできない。

◆ *Oxford Spanish English dictionary* (2009)

**Por** [como]

**por** ejemplo ¿Acepta usted **por** esposa a Carmen?

**De** (en calidad de) *as*

Está **de** profesor en una academia. Hace **de** enanito de la obra.

**Como** prep. (en calidad de) *as*, (con el nombre de) *as*

usando el paraguas **como** bastón. Quiero hablarte **como** amigo y no **como** abogado.

一般辞書であれば上記4冊にある用法と例文で記載事項としては必要十分であろう。そんな中で、以下の Seco (2011) はもう一步踏み込んだ記述になっている。

## ◆ Seco (2011)

**Por**: En sentido moral, **en calidad de**,

Le reconoció **por** hijo. Querer **por** esposa. Pasa **por** experto.

Los más grandes artistas tuvieron a los Papas **por** Mecenas.

### De: Cualidad

Le tildan **de** ignorante. Puede incluirse junto a la cualidad la profesión u oficio: Trabaja **de** recepcionista. Una extensión regional de este sentido la vemos en un ejemplo de Miró: *¿No os queréis DE hermanos?* (“como hermanos”).

### Como: En calidad de

Está muy extendido hoy el uso, tomado del inglés, de **como** por **en el papel de**: <Sean Connery **como** James Bond>. Es superfluo en español, por otra parte, otro uso calcado del inglés: el de como en oraciones con elegir, nombrar, denominar o considerar

Le nombraron **como** alcalde. Le considera **como** su salvador.

Fue elegido por la noche **como** académico.

por に関してはほぼ例文のみだが、de ではその特質には「職業」も含まれ、さらに Miró が述べた例文を取り上げ、この意味での de には地域差があることまで述べられている。como に関しては英語からの影響が指摘されており、elegir, nombrar などでは本来必要ないにもかかわらず、como が英語の *as* のように余剰的に使われていることが指摘されている。

## 2. por, de, como の通時的変遷

現代スペイン語では CCP で使われる前置詞として por, de, como の三種類の前置詞を取り上げた。ここからは過去の資料を参考に時代をラテン語までさかのぼり、そこから現代までの por, de, como の通時的変化をみていくことにしよう。

### 2.1 ラテン語辞典

ラテン語辞典ではどのような語が CCP の前置詞として記載されているのだろうか。『羅和辞典 *Lexicon Latino-Japonicum* Editio Emendata』(2009) で確認したところ、*pro* と *ut* が「として」の意味で記載されていた。

#### ◆『羅和辞典』(2009)

**pro** …のように、…も同然、…として

se **pro** cive gerene 市民としてふるまう。

alqd **pro** certo habere あることを確実であるとみなす。

**ut** …として : canem et felem **ut** does clunt 彼らは犬と猫を神として崇める。

「として」を意味するラテン語の *pro* はスペイン語の *por* の起源とされており、すでにみたよう

に、現代スペイン語の *por* にも「として」の意味が維持されている<sup>5)</sup>。一方で、*ut* は現代スペイン語にはその派生形は残っていない。

では、*como* と *de* の語源はどうか。*como* はラテン語の *quomodo* から派生した語であるが、その *quomodo* は「…のように、…の限り、…の程度まで」という意味になっており、「として」のような意味の記載はない。ラテン語の *de* (現代スペイン語でも *de*) も *quomodo* と同様、「として」の意味は記載されていない。

「として」を意味する *por* にはラテン語からの意味の継続性が確認できたわけだが、では、*como* と *de* はどの時代に CCP の前置詞として使われるようになったのだろうか。次項では過去の辞書や文法書を確認しながらそれぞれの語の意味記述の変遷をみていくことにする<sup>6)</sup>。

## 2.2 スペイン語辞典・文法書

### 2.2.1 *Diccionario de Autoridades* (1726–1739)

*Diccionario de Autoridades* は 1726–1739 に出版された辞典である。その第 2 巻に *como* の記述がある。

- Tomo II (1729) **como**: Partícula comparativa que refiere el un extremo al otro, y corresponde a lo mismo que A la manera que, al modo que.<sup>7)</sup>

「～と同様に」を意味する比較詞 (*partícula comparativa*) としての記述はあるが、「資格」や「立場」などを表す「として」の意味での記載はない。*de* は第 3 巻で扱われているが、「として」の用法は確認できなかった。*por* は第 5 巻で扱われており、「特徴」「所有」「職業」を表し、例文でも *recibir por esposa* (妻として受け入れる) のように *por* が CCP の中で「として」に相当する意味で使われている。

- Tomo V (1737) **por**: Significa tambien la propiedad, posesión, o exercicio actual de alguna cosa: como Recibir *por* esposa, Estar *por* Corregidor.

### 2.2.2 RAE (1771)

Real Academia Española の初めての文法書の *Gramática de la lengua castellana* (1771) ではどうであろう。*como*, *de*, *por* それぞれの用法についての記述はあるのだが (pp. 202–222), 「として」の用法に関しては *por* のみで、*de*, *como* には「として」の記述はなかった。

まず *como* の記述から確認する。*como* は「人、モノ、コトあるいは行為の類似性を表す」と表記されており、資格や立場などを表す「として」の意味は記述されていない：

**Como:**

Sirve para comparar, ó expresar *la semejanza de una persona, cosa, ó accion con otra*: v. g. el hijo es *como* su padre: la provincia es *como* un reyno: escribe *como* habla. (p. 208)

por に関しては、以下の例文からもわかるように「として」の用法としての記述が確認できた。しかし、ここで注目すべきは por の意味記述に como があることである（下線は筆者）。上記でも述べたように、como には「として」の意味記述はない。にもかかわらず、「として」を表す por の意味記述に como があるということは、como にはこの時代すでに「～と同様に」だけでなく、資格や立場を表す「として」の用法もあったのではないかと推測できる。

**Por:** En concepto ó en opinion de, como: tengo á fulano *por* santo, *por* docto, *por* hombre de bien. (p.218)

**2.2.3 Bello (1847)**

Bello (1847) には「として」を表す por と de に関する記述は確認できなかった。一方で、como には詳細な説明があり、ここではその中でも「として」に関係する箇所について取り上げる。以下の記述にみられるように、Bello は類似した (análogo) 要素をつなぐ接続詞として como を扱っている（下線は筆者）：

Hácese conjunción, ligando elementos análogos (1234. 2.)

この文脈の中で Don Quijote の一文が引用されている箇所があるのだが、この文中にある como を資格や立場を表す「として」と解釈するのか、類似を表す「～のように」と解釈するのか、判断が難しい<sup>8),9)</sup>。

«El duque dio nuevas órdenes de que se tratase a don Quijote *como* a caballero andante»

意味分類における記述方法の問題になるが、RAE (1771) 同様、この時代までは「として」も「同様に」も同じ「同一性」という概念に含まれ、あえて「として」の意味を分離させ、独立した項目として扱う必要性を感じていなかったのかもしれない。その理由として、まだ como が「として」の用法で使われることが少なかったからではないだろうか。この点については後のコーパスを使った量的な分析で明らかにしていきたい。

**2.2.4 RAE (1884)**

では、どの時代の辞書から como の「として (en calidad de)」の用法が記述されるようになって

たのだろうか。出版された辞書を、時代を遡って確認すると、1884年にRAEが出した辞書 *Diccionario de la lengua castellana* 第12版で初めて「として」の用法が記述されている。

**Como: En calidad de.** Asiste a la boda *como* testigo. (p. 264)

このひとつ前の1869年の第11版には *en calidad de* (として) の記述は確認できない。このRAE (1884)以降、最新版の第23版 (2014) まで *en calidad de* (として) は上記と同じ例文とともに記載され続けている。

### 2.2.5 Domínguez (1853)

*de* に関してはどうかだろう。*de* に「として」の意味が初めて独立した項目として記述されたのは、Domínguez (1853) の *Diccionario nacional o gran diccionario clásico de la lengua española* である。

**De:** Servir *de* sargento, *de* soldado, *de* oficial, es decir *como* sargento, etc. (p. 146)

ここでは「として」を意味する項目として取り上げられてはいるものの、“*en calidad de*”のような意味の記述はなく、例文 *servir de* (～として仕える) の提示と *como* と置き替え可能であることが示されているだけである。Domínguez (1853) には *como* の「として」の用法は記載されていないのだが、すでにこの時代には *como* は「として」の意味で使われることが一般化してきたことがうかがわれる。

しかし *de* に関しては、*Diccionario de Autoridades* (1734) で *hacer* の項目に以下のような記述がある (下線は筆者) :

Junto con algunos nombres de oficios y la profesión De, vale ejercer los tales oficios como se lo tuviera, o fuera de ellos el que los ejerce: como *hacer de* Escribano. (p. 112)

つまり、「職業」を表す *de* は項目として扱ってはいないが、例文の *hacer de* *Escribano* (書記として働く) からわかるように、すでにこの時代から「職業」「役割」などを表す *de* は *hacer* と共に使われていたようである。

### 2.2.6 Cuervo (1872–1994)

これまでは辞書や文法書の記載事例をみてきたわけだが、その中でも実例に基づいて語彙の用法を詳細に取り扱っているのが Cuervo (1872–1994) *Diccionario de construcción y régimen de la lengua Castellana* である。まず、*como* の項目を確認する。(下線は筆者) :



**Como:**

“Habló el Papa como maestro de la verdad.” aquí *maestro* no es una persona diferente del *Papa*, sino que señala la calidad o condición en que éste se muestra al hablar. (...) *Como* significa en este caso: en calidad de:

- Viene como maestro para ilustrarme con la luz de sus inspiraciones.

VLuis de la Puente (1605) *Meditaciones de los misterios de nuestra santa fe*

- Esto decía Pedro como hombre que aun no sentía las cosas de Dios.

Fray Luis de Granada (1554) *Libro de la oración y meditación*

- Obedecí como un buen criado.

Miguel de Cervantes (1605) *Don Quijote de la Mancha*

上述の例文の“Habló el Papa como maestro de la verdad.”の説明として、*maestro*はel Papa（教皇）と異なる人物ではなく、el Papaが“*maestro*”という資質のある人物であることを表しており、この場合 *como* の意味は *en calidad de*（として）であると述べている。例文は Fray Luis de Granada, Luis de la Puente, Cervantes などの 16, 17 世紀の作品が使われ、すでにこの時代に *como* は「として」の意味で使われていたことがわかる。

*por* の「として」に関する記述として以下の二点があった。

**Por:** - Con el sentido de *como*, en calidad de.

- Con un nombre de cargo como término, indica la función que se va a desempeñar.

一点目は *como* と同じで *en calidad de* を意味するという記述。二点目は職業や役割などを表すという記述である。一点目の用法として以下の例文が挙げられている。

Que cien ombres acompañauan, armados todos de arcos y saetas y varas agudas y tostadas que vsan por lanzas.

Fernán Pérez de Oliva (1580) *Historia de la invención de las Yndias*

「*varas*（長い棒）を *lanzas*（やり）として使う」という箇所では *por* が使われている<sup>10</sup>。以下の文は二点目の用法として使われている例文である。

Eligieron a don Fernando de Válor por rey con esta solemnidad.

Diego Hurtado de Mendoza (1610) *Guerra de Granada*

ここでも rey (王) として選ばれたという箇所では por が使われている。

de に関して Cuervo (1872–1994) では以下のように記述されている。

**De:** Acompaña a predicados designativos de cargos, empleos u oficios.

En dos filas delante se compongan | Y otros, fingiendo voces lastimeras | Sigán de plañideras

Diego González (1785) *El Murciélago Alevoso*

職業や仕事などを表すときに使われるとし、例文として plañidera (泣き女) という「職業」が de の補語になっているものを挙げている。しかしすでに 2.2.5 でみたように、この de はこれ以前にも hacer と共に使われていた。

Cuervo (1872–1994) では、これまでみてきた語彙の意味だけでなく、一般的な辞書には記載されていない語彙の上下関係、つまりソーラス的な語彙の関係も記述されており、「として」を意味する前置詞がどの動詞と使われるかも確認できる。例えば、considerar はコーパスなどで確認すると、como との共起が非常に多いのだが、Cuervo の説明では：

(considerar) va á menudo con como. Alguna vez va con por.

como と頻繁に用いられ、por と共起することがあるという記述である。por を使った以下の例文は 17 世紀の Melo (1645) の作品から取ったものだ。

Consideraban por el mayor daño la pérdida del aliento en los vasallos.

Melo (1645) *Historia de los movimientos, separación y guerra de Cataluña*

一方で、como を使った considerar の例文は 19 世紀の Quintana (1832) から取ったものである。

No consideraba los hombres sino como siervos de su interés, ó como víctimas de sus resentimientos.

Quintana (1832) *Vidas de Vasco Núñez de Balboa, Francisco Pizarro, Álvaro de Luna y Bartolomé de las Casas*

por と como の使用の変遷に関して、少なくとも Cuervo の記述からは、16 世紀から 19 世紀の間に por から como へ置き替わっていったのではないかと推測できる。

その他に en calidad de を意味する前置詞を取る動詞として、aceptar, admitir, ajustar, añadir,

aprobar, asentar, asistir, bastar, calificar, caracterizar, confesar, conocer, dar, despachar, recibir, reconocer, saludar, servir, tener, vender があり, この中でも *asistir*, *caracterizar*, *servir* は *de* を, その他は *por* を, *ajustar* と *calificar* は *por* と *de* どちらも取るとしている。このことから Cuervo の資料では「として」を意味する前置詞では圧倒的多数で *por* が使われていることがわかる。

一方で, *como* を取る動詞は *considerar* のみで, 他の動詞との共起の記述はまったく確認できなかった。コーパスなどで確認すると *tratar*, *conocer* など *como* との共起性が高いのだが, Cuervo ではどちらの動詞にも *como* との記述はなく, *conocer* では “*va á menudo con por.*” として 16 世紀の例文を記載している :

Como nuestro Señor me conoce por tan miserable, siempre me ayuda con palabras y con obras.

Santa Teresa de Jesús (1573–1582) *Libro de las fundaciones*

このような Cuervo の記述説明には, 執筆された 19 世紀後半の言語状況を示しているのか, 15 世紀から 19 世紀にかけての使用状況について説明しているのか不明な点が多々ある。使われている例文や記述内容は 15 世紀から 20 世紀, 特に執筆された 19 世紀後半のスペイン語の状況やその時に蒐集されていた一次資料などの影響が非常に強いという印象をうける<sup>11)</sup>。

次は, これまでの文献学的証拠に基づき, CCP を形成する *como*, *por*, *de* の三つの前置詞の使用が時代と共にどのように変化していったかを, コーパスを使って分析していくことにする。

### 3. コーパスを使った分析

ここからは Mark Davies のスペイン語コーパスを使って *como*, *por*, *de* の使用頻度を年代別に確認していく。対象となる CCP は 2. の文献調査で用例として示された動詞を典型とみなしこれに着目する。*como*, *por*, *de* のいずれかを選択する動詞として *considerar* (みなす), *tener* (みなす), *calificar* (みなす), *servir* (仕える), *trabajar* (働く), *elegir* (選ぶ) を取り上げる<sup>12)</sup>。それぞれの前置詞の使用の割合が理解しやすいように, はじめに *por* と *como* を取る動詞を取り上げ, 次に *de* と *como* を取る動詞を扱う<sup>13)</sup>。

#### 3.1 *por* と *como* を取る動詞

##### 3.1.1 *considerar*

はじめに *considerar* から確認する。*considerar* は, すでに Cuervo (1872–1994) でみたように, 「として」は *como* を選択し, 時には *por* も使われるということであった。図 1 はコーパスで検索した結果である。縦軸は出現数を, 横軸は世紀を示している。このグラフからもわかるよう

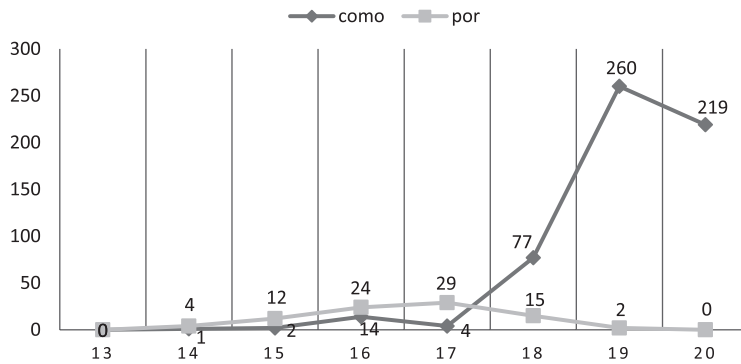


図 1

に、por と como は 17 世紀ころまでは出現数で拮抗していたが、その後 por の使われる頻度は低下し、19 世紀にはほぼ como に取って代わってしまったことが確認できる。por は 20 世紀になると出現件数が 0 になり、実際、現代スペイン語では como が使われ por が使われることはない。先ほど Cuervo が提示した例文も por が使われているものが 17 世紀、como が使われているのが 19 世紀であった。

17 世紀を中心に por の補語となる語をみても、形容詞は *acertada, fraudulenta, inconveniente, tan grande, tan útil, justas*; 名詞は *las aves, mal hijo, conclusión, carga, la derrota, último desengaño, el mayor daño, la virtud* などである。

一方で、20 世紀の como の補語には形容詞が多く、*necesario, peligroso, conveniente, interesante* などのように意味的には価値判断を表すものがほとんどである。補語が名詞の場合、「一番の～」「第一人者の～」のように最上級が使われることが非常に多く、目的語の存在価値を補語によって取り立て際立たせるような例が多くみられる。

### 3.1.2 tener

tener は + 目的語 + por/como で「～を～とみなす」を意味し、por, como の後には名詞、形容詞、過去分詞が使われる。以下のグラフを見ると、16 世紀に por の使用がピークになり、その後徐々に減少。20 世紀に入るとその数が逆転していく。

Cuervo (1872–1994) ではこの tener の用法を、*Juzgar, considerar, afirmar, pensar* などを意味し前置詞 por を取る、との記述がある。例文として以下のものを提示している。

Hasta la víspera, muchos le tenían por un loco: ahora ven que es el hombre que tenía razón.

Germán Arciniegas (1945) *Bibliografía de Caribe*

上記の例文は por un loco (精神異常者として) となっているが、現代スペイン語に限らず、前置詞の補語として使われている名詞は *objeto, costumbre, misión, principio, derecho* など、規

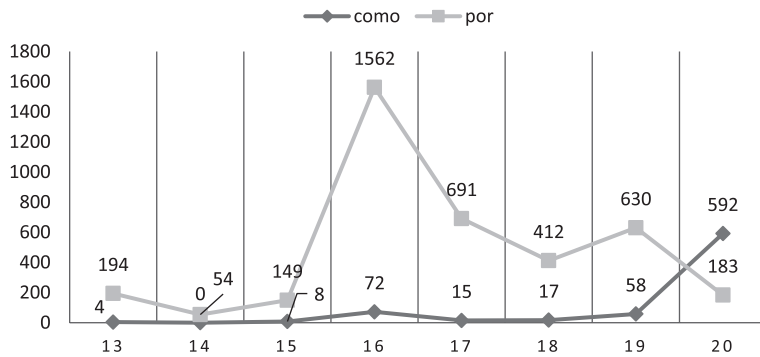


図 2

範や原理原則，目的などが多い。形容詞も同様に *seguro, cierto, conveniente, fundamental* のように価値判断などの語彙が用いられている。コーパスで確認する限り，*por* と *como* では使われる補語の種類はほぼ同じで，現在でも *por* と *como* はほぼ入れ替え可能である。

### 3.1.3 elegir

*elegir* もこれまでの動詞と同様に *por* を「として」の意味で選択し，16世紀最も多く使われていた。*por* の補語としては，*rey, capitán, sucesor, árbitro, juez* など人の属性を表すものが多い。

Pelayo, a quien por muerte del rey Don Rodrigo lo eligieron por rey.

Huarte de San Juan (1558) *Examen de ingenios para las ciencias*

*por* はその後 *como* が増えにつれ数を減らし，20世紀には使われなくなっていった。コーパスでみつけた最後の *por* を取る例文は19世紀中盤のものである。

Tuvo formas é persuadió á algunos para que ellos de nuevo le eligiesen por gobernador.

Icazbalceta (1860) *Colección de documentos para la historia de México*

以下のグラフからもわかるように，*elegir* においてもこれまでの動詞と同様に，*por* は16世紀をピークに出現数が減り，20世紀には0になってしまった。それと取って代わるように19世紀から *como* の出現が増加している。

## 3.2 主に *de* と *como* を取る動詞

### 3.2.1 calificar

現代スペイン語において *calificar* は前置詞として *de* と *como* を取る<sup>14)</sup>。一方で，Cuervo (1872–1994) では *calificar* の取る前置詞を以下のように記述している：

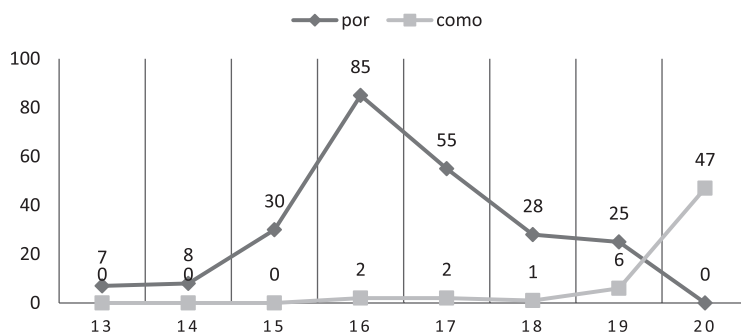


図3

**calificar:** Con *por*, en igual sentido, aunque hoy es menos usual que *de*.

そして、次の例文を示している：

Quien rehusara esta comida, pues tu la calificas por santa?

Antonio Román (1690) *Obras Espirituales*.

*por*を使うが、「現在 *hoy*」では*de*よりも頻度が低いという記述である。この*hoy*がいつのことなのか不明だが、*calificar*が第2巻に記載されていることを考えると19世紀の後半であろうと思われる<sup>15)</sup>。

以下のグラフを見てみよう(図4)。少し見にくいのだが、*como*が初めて出現したのが17世紀で2件のみ。それ以前は*por*と*de*が拮抗しており、18世紀になると*de*の使用が増加していく。*Cuervo*が執筆した19世紀には*de*の使用が最も多くなっており、先ほどの記述通りになっている。しかし、ここでも20世紀に入ると*como*の使用が増加し、*por*が消え、現代の辞

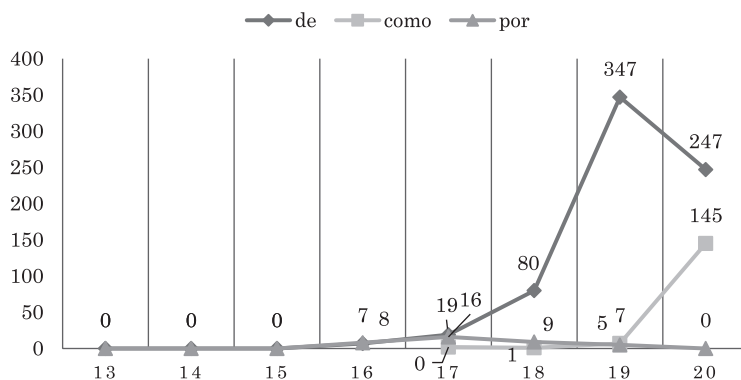


図4

書の記述通り de と como を選択するようになる。

主に 20 世紀での比較になるが、de と como で補語として使われる語の特徴に大きな違いは見られなかった。de であれば、名詞は mentiroso, criminal, oponente, comunista, mérito, ejemplar など、形容詞は importante, obvio, sabresaliente, malo, indignante など。como であれば、名詞は pescador, delincuente, delito, candidato, récord, trampa など、形容詞であれば difícil, positivo, injusto, elegante, lento, ilegal などである<sup>16)</sup>。

### 3.2.2 servir

servir は「役立つ」「仕える」「働く」という意味で、現在では主に de と como を使い、por は 20 世紀に入ると使われなくなった。

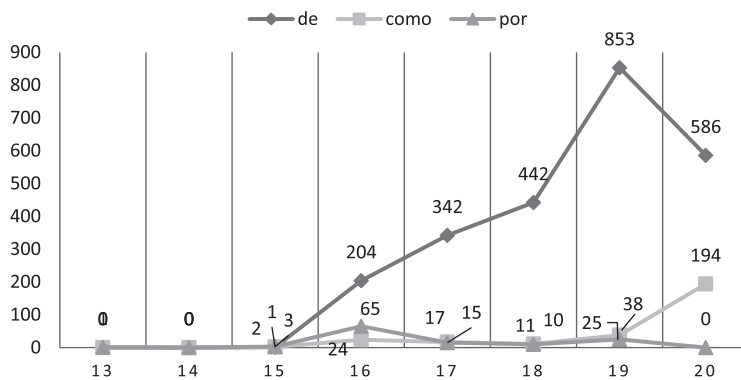


図 5

Cuervo では de を取った場合の記述が二点あった。

- Con de, para especificar el cargo.
- Con de, para indicar el empleo.

「役割」や「職業」を表すということだが、実際、servir をコーパスで確認すると、「役割」を表す base, modelo, ejemplo, apoyo, consuelo, garantía などが de の補語として多く使われている。同時に、「職業」など表す de も Don Quijote で使われている。

...fuera se puso un muchacho, criado del maese Pedro, para servir de intérprete y declarador de los misterios del tal retablo...

Cervantes (1615) *Segunda parte del ingenioso caballero don Quijote de la Mancha*

### 3.2.3 trabajar

trabajar は Nebrija の辞書から掲載されている古くからある動詞ではあるが、19世紀まで「として」を意味する前置詞を取ることはなかった。以下のグラフからもわかるように、trabajar が de と como を取るようになったのはやはり19世紀からである。

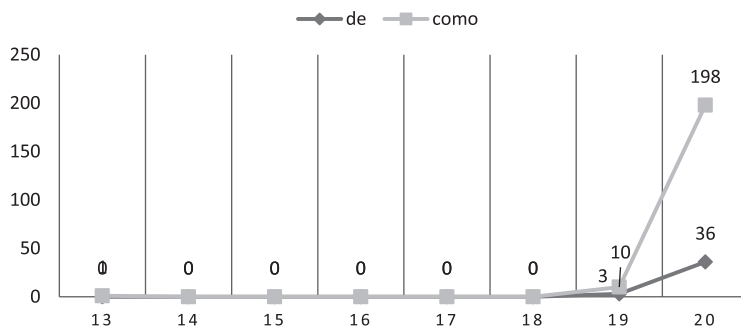


図6

19世紀までは「～として働く」という言い方は hacer de, servir de (por) が少数ながら確認されているが (2.2.5, 3.2.2 参照), 少なくとも trabajar にはそのような表現形式はなかったようである<sup>17)</sup>。

## 4. 考察

CCP内における por の使用頻度が19世紀頃になるとどの動詞も顕著に低下する一方で、como の使用頻度が大幅に上昇している。先に見た文献学的な証拠からも、18, 19世紀から como の「として en calidad de」の意味記述が確認されている (RAE (1771) で como が「として」の意味で使われていたと推測できる記述があり、2.2.4. の RAE (1884) では初めて “en calidad de” の意味が記載された)。その理由は何なのだろうか。現在でも por は tomar や pasar, dar などと共に「として」の意味で使われている。tomar と pasar では主に「間違っ」みなされる場合、dar では実際には完了していなくても完了したものとみなす場合に使われる。

- Me toman *por* extranjero. 私は外国人とみなされる。
- Pasas *por* un hombre atractivo. 君は魅力的な男と思われている。
- Lo damos *por* terminado. 私たちはそれを終わったものとする。

その一方で、por が como と置き替わってしまった動詞が数多くある。すでにみた considerar, tener, elegir は、tomar, pasar とは違い、間違いや勘違いであるモノ (コト) を「みなす」「選ぶ」



わけではない。何らかの根拠に基づいての行為である。動詞によるこのような前置詞の選択の違いは *por* と *como* の「として」以外の意味に関係があると思われる。

*Por* には *Ella vino por su hijo*. (彼女は息子の代わりに来た。) のように代わりとして全く別人(モノ)を提示する用法があり, *como* には *Lo quería como a mi padre*. (私は彼を父親のように愛していた。) のように直喩的な用法がある。前置詞の基本語義を決定するのは難しいが, *por* には「代替」の概念から「実際とは異なる」という含意が, *como* には直喩や類似性の概念から, 何らかの「根拠に基づく」という含意があると考えられる<sup>18)</sup>。

このような仮説に基づき, 前置詞の変遷をたどってみる。*como* はすでに16世紀には「として」の意味で使われていたが, 18世紀頃から *considerar* や *tener* をはじめとして, 多くの CCP で *como* が「として」の意味で使われるようになった。18世紀, 特に19世紀には *por* と *como* の混在が見られたが, *por* は *pasar* や *tomar*, *dar* などと結びついて「実際とは異なる」という含意のある CCP として, *como* は *considerar* などの「根拠に基づく」含意のある CCP として, それぞれ棲み分けが進んでいった。さらに, *por* という一つの前置詞で「実際とは異なる」「根拠に基づく」という相反する含意を「として」の意味に含めるよりも, 台頭してきた *como* に「根拠のある」役割を託した方が, 運用面で合理的であることもこの二つの前置詞が袂を分かつ原因になったのではないかと考えられる<sup>19)</sup>。

*de* の定義を考えるには, まず 1.2. の Seco (2011) で, *de* を “*cualidad*” (特質) を表す前置詞であるとしている点がヒントになるだろう。例えば, *una taza de café* (コーヒーカップ) において *taza* の特質 (*cualidad*) を “*de café*”, つまり「*de* + 名詞句」によって表していると考えれば, この “*cualidad*” を表す「*de* + 名詞句」の機能が, *calificar* のような特定の動詞と結びつき, CCP を形成しているのと仮定できる。つまり, CCP 内で主語または目的語の特質 (性質と言い換えてもいい) が「*de* + 名詞句」によって叙述されていると考えると (先の例では, *taza* が *de café* によってその特質を表す), ヒトやコト, モノの特質を「評価」する *calificar*, *tildar*, *tachar* や, 主語の属性として「職業」や「役割」を表す *trabajar*, *servir*, *hacer* では, *por* や *como* ではなく, *de* のほうがより適切な前置詞であると考えられる<sup>20)</sup>。しかし, このように *de* と比較的相性の良い *calificar* や *trabajar* でも 20世紀になってからは *como* を選択する頻度が多くなってきている<sup>21)</sup>。

## 5. まとめ

最後に CCP における *como*, *por*, *de* のそれぞれの機能や役割についてまとめてみたい。*por* はラテン語にもある「として *en calidad de*」の意味が現代まで続いているが, 16世紀を頂点として使用頻度はかなり減ってきている。特に18, 19世紀からは *como* との競合, または意味的な棲み分けで使用頻度が激減した。現在 *por* が主に使われているのは *tomar por*, *pasar por* の

por や dar por である。この por は como との相反する含意（実際とは異なる）を持ち現在でも存続している。

como は 16 世紀から「として en calidad de」の意味として使われていたが (Fray Luis de Granada 1554), 辞書への記載はかなり遅れた (RAE 1884 年)。直喩などを表すことから「根拠に基づく」という含意を有し, 19 世紀以降, por に替わり使用頻度が増加した。20 世紀になると por だけでなく, de を使った CCP にも出現し, 現在では tomar, pasar, dar 以外のほぼすべての動詞で como が使われるようになった。

de は hacer, servir など 16 世紀頃から「として」の意味で使われていたが, 「de + 名詞句」の修飾する名詞句の特質を表すという機能が特定の動詞 (主に「評価」や「職業」, 「役割」を意味する動詞) と結びつき, calificar が使われる CCP にも de が使われるようになった<sup>22)</sup>。使用頻度は 18 世紀以降増えてきたものの, como への置き換えも散見されるようになってきた。

#### 注

- 1) 「叙述補語構文」という用語は Demonte (1999: 2463) の “complementos predicativos” を参考にした。
- 2) コーパスへのアクセス最終日は 2018 年 9 月 18 日である。Mark davies: <http://www.corpusdelespanol.org/x.asp>
- 3) 他のロマンス諸語の場合にはスペイン語と同様「として」に当たる前置詞が複数個あり, それらはスペイン語と類似している。フランス語: en, pour, comme, イタリア語: da, come, per, ポルトガル語: como, de, por。
- 4) en calidad de のような複合前置詞句は動詞の下位範疇にはなりにくいので, ここでは扱わない。
- 5) per もスペイン語の por の起源とされている。
- 6) ここからは便宜上これらの三つに前置詞が CCP 内で表す概念を「として」という意味記述に統一する (スペイン語では en calidad de)。この「として」は必ずしも日本語の「として」と完全に一致するものではなく, “en calidad de” もすべての CCP で por, como, de と置き換えられるものでもない。他の意味と区別するため, 資格や立場などを表す象徴的な意味概念として便宜的に使用する。
- 7) …el un extremo… は誤植ではなく, 辞書記載のまま。
- 8) 牛島信明訳では「として」となっている: …ドン・キホーテを本物の騎士として扱うようにという命令を, あらためて家臣一同にくださったのであった。(牛島信明 ドン・キホーテ後篇 (二) 第 32 章 p. 156
- 9) Cano Aguilar (1995: 67) もこの区別はより適切な解釈ができるような文脈で判断されるが, その判断は難しいとしている。
- 10) この文は「veras (長い棒) を lanzas (やり) の代わりに使う」という解釈もできる。
- 11) Cuervo の *Diccionario de construcción y régimen de la lengua castellana* は 1872 年から取り掛かり, 作業は 1896 年に一時中断している。ここまでで A~D を執筆し, その後 Instituto Caro y Cuervo が作業を引き継ぎ 1950 年から再開して 1994 年に完成した。引用文献では 20 世紀の作品も若干含まれているが, その多くは 19 世紀までの作品で占められている。とはいえ, Cuervo が提示した各項目の記述内容は, 現代スペイン語との用法の違いを確認するのに非常に有効であり, その記述に費やした労力や英知は十二分に称賛されるべき価値を有していることは言うまでもない。
- 12) この他の CCP で「として」を表す前置詞を下位範疇として取る動詞として tomar, pasar, dar がある。これらは現代でもほぼ por のみを選択し前置詞間の比較ができないことからここでは取り扱わないが (tomar は数は非常に少ないが como, de など共起する), 4 章で considerar との比較として簡単に述べている。詳しくは下田 (2016) を参照。この他に de を取る動詞として actuar, tildar, tachar,

- caracterizar, adjetivar, etc. があり, como を取る動詞には nombrar, denominar, actuar, etc. がある。tildar, tachar は5章で de を取る CCP として簡単に扱っている。
- 13) considerar を例に Mark Davies のコーパスの検索方法を述べる。Corpus del Español: Genre/Historical のページで検索ボックスに [considerar] como \_NN\* と記入すると, considerar すべての活用形と como の後に名詞がくる文字列を世紀別に表示してくれる。\_NN\* を \_J\* に代えれば形容詞の文字列も検索できる。しかし, ここで問題となるのは, considerar の後, como の前に目的語がくる場合の例文は検索できない。
- 14) 『現代スペイン語』: […の特徴を +de, como と] 形容する, みなす 『西和中辞典』: (de.../como.... と) みなす, 評する; 格付けする
- 15) 注7を参照。
- 16) 評価に関する動詞としては tachar と tildar (非難する) も「として」の意味で de を取り, それぞれ 16 世紀, 17 世紀から現在まで使われ続けているが, calificar とは異なり, 20 世紀になっても como を取る例は非常に少ない。...creyendo muy cierto que no me tacharás de vano alabador. Granada, Fray Luis de (1536) *Traducción de la Imitación de Cristo de Kempis*
- 17) 理由は不明だが Cuervo には trabajar が見出し語として記載されていない。
- 18) 「根拠に基づく」という意味では, definir (特徴づける, 定義する) も 17 世紀に por を取っていた例が 2~3 例見つけたが, 18 世紀からは完全になくなり como を取るようになっていった。
- 19) Seco (2011) が指摘している英語からの影響も多分にあったと思われる。
- 20) tachar や tildar も辞書での記述は下位範疇に de を取り, コーパスでもほとんどが de を取るが, ネット検索をすると como の例も散見される。
- 21) Seco (2011: 156) では, 英語の影響で「役割 (en papel de)」を表す場合に como の使用が増加していることが述べられている。Sean Connery COMO James Bond. (*Abc*, 27. 9. 1964)
- 22) RAE の辞書では de の「役割」「職業」についての記述が最新版の第 23 版まで一度も掲載されていないのは, de + 名詞句が特定の動詞と組み合わせられ CCP を形成した場合にそのような解釈がなされるからであろう。

#### 参考文献

- 有本紀明・他 (編) (2000) 『和西辞典』改訂版 白水社 東京。
- Bello, Andrés (1984) *Gramática de la lengua castellana*, Editorial EDAF S.A., Madrid.
- (1847) *Gramática de la lengua castellana destinada al uso de los americanos*, Biblioteca Virtual de Miguel de Cervantes, Caracas.
- Cano Aguilar, Rafael (1995) *Sintaxis histórica de la comparación en español: historia de como*, Universidad de Sevilla, Sevilla.
- Carbajal (ed.) (2008) *Oxford Spanish English dictionary*, fourth edition, Oxford University Press, Oxford.
- Corominas, Joan (1980–1991) *Diccionario crítico etimológico castellano e hispánico*, Gredos, Madrid.
- Cuervo, Rufino José (1994) *Diccionario de construcción y régimen de la lengua castellana*, Instituto Caro y Cuervo, Bogotá (CD-ROM).
- Demonte, Violeta y Masullo, Pascual José (1999) “La predicación: los complementos predicativos”, en Bosque, Ignacio y Demonte, Violeta (dirs.), *Gramática descriptiva de la lengua española*, Espasa Calpe, Madrid, pp. 2461–2524.
- Domínguez, Ramón Joaquín (1853) *Diccionario nacional o gran diccionario clásico de la lengua española*, Establecimiento tipográfico de Mellado, Madrid-París.
- 水谷智洋 (編) (2009) 『羅和辞典羅和辞典 <改訂版> LEXICON LATINO-JAPONICUM Editio Emendata』 <改訂版> 研究社 東京。
- Real Academia Española (1726–39) *Diccionario de Autoridades*, edición facsímil, Editorial Gredos, Madrid.
- (1771) *Gramática de la lengua castellana: edición facsímil y apéndice documental*. Ramón Sarmiento, Editora Nacional, Madrid.

———— (1884) *Diccionario de la lengua castellana*: duodécima edición, Madrid.

———— (2005) *Diccionario panhispánico de dudas*, Santillana, Madrid.

———— (2014) *Diccionario de la lengua española: vigesimotercera edición*, Espasa libros, Madrid.

Rubio, Carlos 他 (編) (2004) 『クラウン和西辞典』三修社 東京。

Seco, Manuel (2011) *Diccionario de dudas y dificultades de la lengua española*, Espasa-Calpe, Madrid.

下田幸男 (2016) 「『みなす』に対応するスペイン語の構文について」『京都産業大学論集人文科学系列』第49号。

高垣敏博 (2007) (編) 『小学館 西和中辞典』〔第2版〕小学館 東京。

山田善郎 (1999) (編) 『現代スペイン語辞典』改訂版 白水社 東京。

山田善郎 (2015) (監) 『スペイン語大辞典』白水社 東京。

## On the diachronic change of the prepositions used in the construction of predicative complements

Yukio SHIMODA

### Abstract

In a construction of predicative complements (CCP in the text), some predicative complements appear with three prepositions *por*, *como*, *de*. We will examine differences in how these prepositions have been used in the philological method: we collect data, using a diachronic corpus based on the philological investigations, and we make it clear what kind of transition makes them to their current use. As a result, *por* was used overwhelmingly in CCP from the Latin era until the 17th century, *como* emerged in the 19th century, and many of *por* changed to *como* in the 20th century. It is revealed that such a transition was caused by implications of *por* and *como* in CCP. *de* does not have a meaning like “as” in itself, but in CCP, since the “*de* + noun phrase” expresses the properties of the subject and the object, it tends to co-occur with verbs which represent “attribute” or “occupation” of the subject and the object of CCP.

**Keywords:** preposition, de, como, por, corpus